



# 学校だより

<http://fussa-3e.hs.fussa.school/>

令和7年8月27日  
福生市立福生第三小学校  
校長：浅倉 宏之  
住所：福生市牛浜162  
電話：551-0249

## ことばでつながる ことばで育つ

校長 浅倉 宏之

さあ、いよいよ2学期が始まります。約4か月間の長丁場です。5年生の名栗自然教室、運動会、学習発表会と様々な行事が目白押しです。職員室でも各行事の成功に向けて、計画も着々と練られています。子供たちの安全を第一に、思い出に残る素晴らしい体験になるように尽力してまいります。

子供たちの安全と言えば、先ごろ立川市での事件のことが思い起こされます。特に運動会などでは、多くの保護者の皆様や地域の方々にご覧いただきたいところですが、昨今の事情を鑑み、校庭に入る際のセキュリティーに一抹の不安がございます。今年度からは校門のところに受付を設置し、必ず入校証の確認と名簿のチェックをさせていただくこととします。利便性は失われますが、ご理解いただければと思います。

さて、今年度は学校を上げて「読書活動」に力を入れています。始業式には、1学期に読書活動で頑張った子と、クラスの表彰を行いました。読書の推進をする理由は、子供たちの言葉を豊かにしたいからです。私が着任してから続けている「詩の暗唱」と同じ理由です。



始業式 読書の表彰の様子

子供たちの会話を聞いていると、同じ言葉を繰り返し言っているのをよく耳にします。また、日本語はオノマトペが異様なほど豊富で、相手の意図を汲み取ろうとする言語なので、「ガーッ」とか「バンッ」みたいな擬音語・擬態語だけでも会話が成り立ってしまいます。

成り立っているなら問題はないように思いますが、例えば、「自分の本当の思いを伝えたい」「自分が困っていることを知ってほしい」「助けてほしい」など、自分の大事な気持ちを伝えるには不十分です。また、SNSなどでは文字面だけなので、相手の意図を汲み取りづらくなり、トラブルになりがちです。

喧嘩の時も、「キモイ」「ウザイ」「シネ」を連発するだけの罵倒合戦です。理由があっても対立するにしても、罵る言葉しか出てこないとお互いに感情が高ぶり、変な方向にエスカレートするだけです。

「自分がどう思ってどうしたいのか」を伝えられない子が多くなったなと思います。そんな子供たちの困り感を軽減するためにも、たくさんの言葉を獲得して、自分の思いを素直に伝えられる子供たちになってほしいと願っています。ご家庭でも「詩の暗唱」や「読書活動」へのお子さんの頑張りを後押ししていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。